

教育長室だより

第 17 号

2019.12.13

冬も深まり、令和元年もあと半月になってまいりました。恒例の“今年の漢字”は「令」ということで一つの節目を迎えた年でしたが、災害や事件など悲しいニュースが多い年でした。

さて、子どもたちの一年はどうだったでしょうか。子どもたちはあまり干渉を望みませんが、そっと見守られることはうれしいと感じているはずです。

○

前回、前々回とネット、スマホの問題を取り上げました。子どもを取り巻く問題の中でも特に大きい問題だと考えているからですが、今回はもう少しその背景にあるものを考えていきたいと思います。

○

このところ女子児童や女子中学生の誘拐等の報道がたびたび取り沙汰されています。栃木、埼玉、愛知など大変心配な事例が目につきます。なぜこのような事例が増えているのでしょうか。

この問題は子どもがネットやスマホとどう付き合えばいいかという視点から論じられることが多いようですが、わたしはもっと子どもの生活そのものに目を向ける必要があると思っています。

○

これらの事件は報道されたところによると、強制による拉致のようなかたちでなく、当初子どもたちが自分の意思でついて行ったとされています。であればなぜそういうことになったかについて、子どもたち自身に目を向けることが大事だと考えます。

○

子どもたちは危機意識が十分ではありませんし、大人の悪意を想像するのも得意ではありません。未成年を無断で連れ回したり、家に泊めたり、監禁したりする犯罪行為に至るような人とは思わなかったのでしょうか。されていることが大した犯罪と気づいていないのかもしれませんが。

SNSで偶然知り合ったその人は、今自分の周りにいる大人たちより“話を聞いてくれる”、“親身になってくれる”と感じたのかもしれませんが。「優しいお兄さん」や「優しいおじさん」でしかなかったのだと思います。

○

子どもを取り巻くネットやスマホ、そしてゲームに関わる危険の一つに、動画サイトへの投稿があります。

○

今の子どもにとって動画サイトや掲示板のような開かれたネットの世界とつながることはたやすいことのようにです。小学生でも中学年になればそういうことができる子が急速に増えるように見えます。

自分が上げた情報にたくさんの方が反応してくれて、なかにはとても好意的に返信してくれる人が現れます。こうした反応に喜びを感じるのは当たり前かもしれません。今の多くのSNSでの交流はこのような見知らぬ人との頼りない人間関係です。

開かれたサイトに自分自身の顔写真や部屋や家の写真、友だちの顔と名前がわかる写真や情報などを無防備に上げてしまう例も多くなっているようです。

今のところ町内でニュースのような犯罪の被害につながる例はありませんが、いつそうなってもおかしくない状況は広がっていると思われます。



ここで見えてくるのが子どもたちの“心のすきま”です。

このような「優しいお兄さん」や「優しいおじさん」が入り込んだ心のすきまがなぜできるのかについてはよく言われるように、寂しさや空しさや周りや自分への嫌悪なのだろうと想像できます。

一心不乱にゲームに没頭することにエネルギーを注ぐ子どもたちにも同じような心のすきまがあるのではないのでしょうか。



こういうすきまはどの子どもにも生まれるものでしょう。そのすきまを何かで埋めながら子どもたちは日々生活しています。

勉強やスポーツや趣味など打ち込むものがある子どもは心配ないですね。しかしもっと大事なものは人との関係です。友だち、先輩、後輩、先生…。そして何より親や兄弟姉妹。身近な人、特に身近な大人との心のつながりが子どもの安心や安定の何より大切な基盤です。



こうした人とのつながりによる心の安定は子どもを元気にします。様々なものに興味・関心を持ち意欲的に取り組もうとします。心が満たされ、すきまができません。



子どもを取り巻く大人、特に保護者としてこの問題にどう向き合うかの答えの一つが、この「心のすきま」をなくすという点にあるのだと思います。

頭ごなしに禁止するだけでは解決しません。スマホやゲームが子どもにとって（大人にとっても）楽しく魅力的であることは変わりません。

子どもを守るのが周囲の大人の役目ならば、まず子どもたちがネット上の危ういつながりによって心のすきまを埋めなくてもいいように、現実には日々生活する中で、周りの人たちとのリアルな人間関係の絆を太くする努力が必要なのです。



子どもと一緒にゲームをして楽しさを共有することも無駄ではありません。その上で、ネットやゲーム以外の様々な価値ある体験や活動（これが何かは様々な意見があるでしょう）の楽しさも一緒にやって共有してはどうでしょう。

子どもたちはいろいろなものへの興味や関心に目を見開き、体験を共有した大人との絆を深めるに違いありません。